

カフェあやめ便り



● 農産品販売しています

スイートコーン、梅干し、スイカ、
ゴーヤ、お米、季節の野菜
魚介類、
その他いろいろあります。



● ランチ好評です 400円（コーヒー付き500円）



栗市長も来られました。



● カルチャー教室のお知らせ

パソコン教室は 8月8日・22日 10時からです。
原則として第2・第4金曜日です。

シアトルからこられたデビン・バングサンド
さんに英会話教室をしていただきました。



新聞で紹介されました



←北國新聞 7月15日 朝刊

野々市市長が
住民カフェ視察

御経塚・あやめ

野々市市の栗貴章市長は14日、同市御経塚3丁目のあやめ会館で、あやめ町内会が高齢者支援のために取り組んでいる住民カフェ活

動を視察した。

「カフェあやめ」は昨年11月、市内第1号として始まり、週3回開かれている。栗市長は1食400円のランチを試食し、藤田雅顕町内会長ら住民と懇談した。市はカフェあやめに対して毎月高齢者福祉担当職員を派遣し、運営に助言するなど支援を続けている。

市内では太平寺、新庄1丁目町内会でも住民カフェが始まった。稲荷町内会は集会所を子育て世代の交流の場として開放している。「すそ野が広がり、喜ばしい。息長く続けていたきたい」と話した。

高齢者の交流を後押し

野々市市御経塚3のあやめ会館で毎週月、水、金曜にあやめ町内会が開くコミュニティカフェ「カフェあやめ」が人気だ。昨年11月の開店以降、高齢者や子育て世代のたまり場として定着した。市内の先行事例として、他地域からも注目を集める。(谷知佳)

野々市「カフェあやめ」人気



カフェあやめに昼食をたどち開ける。食へに通う三田健さん。現役時代は自宅と会社(今は三月に定年退職)の往復で参加していたが、一人住まい。テレビった町内会行事にも顔を覗き、読書、散歩とのんびり過ごしているが「こころを合わせて食べるとこに来るまで一日中、誰かおいしい」と四百円の日替わり定食を完食した。

かつて水田が広がっていた土地だが、今は約三百三十世帯が暮らす。半数近くが高齢者だけの世帯。二年前に近所のスーパーが閉店し、車や自転車に乗れない高齢者には不自由もあるという。

孤独死や防災などへの対応が迫られる中、あやめ町内会の藤田雅顕会長(ここら有志が会館の有効活用も兼ねてカフェを開く。昨年度は市の市民協働事業に採択された。本年度も町内会が運営を継続した。喫茶店経営の経験がある女性らが切り盛りする。営業時間は午前10時から午後5時。利益追求が目的ではないためメニューはコーヒー、ジュース、ソフトなど手ごろ。近隣農家から出品された野菜も販売する。市内の町内会をはじめ遠くは福井県からも視察に訪れる。藤田会長は「カフェはコミュニケーションのツール。にぎやかにしていると人も情報も集まってくる」と話す。

刺激受け「太平寺カフェ」も開店



⑤「カフェあやめ」で交流を深める利用者ら「野々市市御経塚で」
⑥水墨画の趣味が披露され、解説に聞き入る「太平寺カフェ」の利用者ら「野々市市太平寺で」

市地域包括支援センターは「コミュニティカフェは地域の困り事を住民自ら解決する素晴らしい試み」と話す。一方で息の長い活動に向けて、スタッフ確保といった課題が想定されるという。

中日新聞 7月22日 朝刊